

令和8年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

校訓五綱領（剛健・質実・自重・自治・至誠）の下、豊かな個性の伸張と人間性の尊重、陶冶に努めることにより、高い志をもち、国家・社会に貢献する気概に満ち、国際人として様々な分野で活躍するリーダーとなる人材を育成するため、特に次の能力を育むことをめざして全人格的な教育を行う。1920年に設立され百年を越え維持されてきた校風を大切にしてい

○高い知性、豊かな人間性、健やかな心身と強い意志をもって未来に生きる総合的な人間力

○高い基礎学力と自学自習力を有し、自ら課題を発見し解決していく能力

○自他を尊重し理解する能力に秀でるとともに、他者と協働する能力や自らの考えを世界に発信できるコミュニケーション能力

2 中期的目標 令和8年度は、GLHS校再指定5期3年め、SSH校Ⅳ期認定（1年め）であり、取組みの一層の充実を図る。

1 高い知性と確かな学力の育成

- (1)「授業で勝負」。質の高い授業と生徒の積極的な授業参加により高い知性と確かな学力を育成する。主体的・対話的な双方向の学びの視点からの授業の改善充実を進めることで生徒の学習意欲を高める。授業中心の「予習→授業→復習」という毎日の学習サイクルを確立し、基礎学力の定着と自学自習力の向上、実践力の育成を図るためにきめ細かい指導を行う。
- ア 生徒による授業評価を活用しながら、研究授業、相互の授業参観を行って授業の改善充実に努め、生徒の授業理解度及び授業満足度の向上を図る。
- イ 主体的・協働的に学ぶ姿勢を育成するための学習・指導方法等を充実させる。
- ウ 生徒自身ができるようになる授業を行い実践力を養う。
- ※生徒による授業アンケートの項目8と9の肯定率を、3学年平均で88%以上(R5：91.2%、R6：91%、R7：91%)を維持する。
- (2)「言葉」と「体験」をキーワードに多様な学習の機会を開設し、生徒の自ら学び、考え、判断し、行動する力を育成する。
- ア グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）事業やスーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業等を活用し、生徒の英語活用能力、課題発見能力、論理的思考力、分析力、プレゼンテーション能力などの向上を図る。
- イ 教科・科目の授業や探究活動においてICTを積極的に活用し、情報リテラシー（収集、選択、活用、編集、発信する能力）の向上を図る。
- ※英語活用能力のより精緻な測定のため、79期生以降についてはTOEFL Juniorで英語活用能力の伸長を測り、英語活用能力の向上をめざす。

2 高い志の育成と国公立大学への進学実績の向上

- (1)3年間を見通した進路指導によって高い志と明確な目的意識を育成し、生徒の興味・適性・個性に応じた進路選択を支援する。また、生徒の進路希望を実現するため、授業・講習等により学力向上を図る。
- ア 進路HRを中心に計画的な指導と情報提供に努め、主体的な進路実現を支援する。
- イ 探究活動やSSH事業を通じて興味関心を深く掘り下げる中で進路を考える機会を増やす。
- ウ 1年次から高い目標をもたせ、京・阪・神大をはじめとする国公立大学を目標とさせる指導を充実する。
- エ 授業に加えて、必要に応じて、進路指導部が中心となって各学年で計画的な講習を実施し、学力の向上を図る。
- ※京・阪・神大をはじめとする国公立大学への合格者数を現役で135人以上（R5：122人、R6：156人、R7：146人、現役・一浪で200人以上(R5：180人、R6：153人、R7：176人）をめざす。

3 豊かな人間関係を醸成する行事・部活動の振興と生徒指導の充実

- (1)文理学科としての学校行事と部活動の充実、学校内外の体験活動を通じて豊かな人間関係と自主性、自律性を育て、リーダーシップを育成する。
- ア 生徒実行委員会による学校行事の運営を進める。
- イ 自主性を尊重した部活動の運営を推進するとともに、学習と部活動の両立を図る。
- ウ 文化系部活動振興の一環として、科学系部活動を統合する組織により、探究活動の深化・発展を図る。
- ※生徒の部活動に対する満足度85%以上（R5：85%、R6：85%、R7：87.2%）を維持する。
- (2)全教職員による生徒指導によって規範意識やマナーの向上を図り、よりレベルの高い「規律ある進学校」をめざす。
- ア 挨拶、遅刻、規律ある服装・頭髪、交通ルールへの遵守等の指導を充実する。
- ※遅刻数は1,500回以下（R5：1,661回、R6：1,690回、R7：1,642回）をめざす。
- (3)体験を重視した人権教育を通じて人権感覚を育て、人権問題の解決に向けた態度の育成を図る。
- ア フィールドワークや当事者との交流の機会を充実させる。
- (4)配慮を要する生徒へのきめ細かな指導を行い、特に不登校の予防と不登校生徒へのケアに努める。
- ア 教育相談室を中心に、配慮を要する生徒の情報を迅速に収集して関係教職員が共有するとともに、スクールカウンセラーや専門機関との緊密な連携に努める。

4 労働安全衛生管理体制の充実

- (1)大阪府立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づき働き方改革を推進する。
- ア 職員同士の円滑なコミュニケーションの促進、ハラスメント・体罰等の防止。
- ※教職員向け自己診断「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」92%以上（R5：96%、R6：93.7%、R7：96.8%）、
- 「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」85%以上（R5：89%、R6：85.7%、R7：90.3%）
- イ 業務内容の精選、平準化、効率化。
- ※年間の時間外在校等時間が720時間を超える教育職員をゼロにする。
- ※時間外勤務月間80時間を越える教職員の延べ数の減少（R5：28人、R6：18人、R7：17人）、
- ストレスチェック職場総合健康リスク値の改善（R5：90、R6：87、R7：88）。
- (2)安全安心な教育環境の確立
- ア 経年劣化等による設備等の機能回復を図る。学校施設、物品等の機能回復と充実により教育環境を整える。
- ※不良個所の減少。

【学校教育自己診断における結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和8年12月 実施分〕	学校運営協議会からの意見

3	豊かな人間関係を醸成する行事・部活動の振興と生徒指導の充実	（1）豊かな人間関係と自主性・自律性・リーダーシップの育成 ア 生徒実行委員会による学校行事運営 イ 自主性を尊重した部活動の推進、学習と部活動の両立 ウ 科学系部活動のさらなる活性化	（1） ア・体育祭、文化祭等の行事を極力生徒自身に企画・運営させる。 ・リーダー講習会を実施する。 ・他校執行部との交流、ボランティア活動など、学校外への働きかけを意欲的に行う。 イ・顧問の指導の下、生徒自身に活動のあり方を考えさせることにより、自主性と自律性の向上をめざす。 ・「生活のスタンダード」を踏まえ、学習と部活動の両立を図る。 ウ・既存の部と同好会を束ねる「科学系クラブ連合」により探究活動の深化・発展を図る。	（1） ア・各行事の満足度・達成度 90%以上 [体育祭 99%、文化祭 99%] イ・部活動に対する満足度 85%以上 [87. 2%] ・自己診断（生徒用）の「学習・行事・部活動のそれぞれにバランスよく取り組んでいる」75%以上 [78. 6%] ウ・科学系部活動参加者による発表・表彰件数前年度並みを維持 [エントリー数 52 件、入賞 14 件] ・科学系部活動入部者数前年度並み維持 [76 人]	
		（2）「規律ある進学校」の実現 ア 規範意識・マナーの向上 （3）人権教育の充実 ア 体験重視の人権教育 （4）配慮を要する生徒へのきめ細かな指導 ア 情報の迅速な把握と共有化、関係機関との連携 イ 欠席生徒への情報共有及び対策	（2） ア・全教員による挨拶、遅刻、規律ある服装・頭髪、交通ルール遵守等の指導の充実。 ・生徒の地域活動（清掃活動等）を推進する。 （3） ア・フィールドワーク、当事者との交流機会の充実 （4） ア・年 3 回の欠席調査や学年会議等で情報を把握、ケース会議を随時開催して情報の共有化を図り、指導方法を検討する。 ・保護者の協力を得て、スクールカウンセラー、府立高等学校適応指導教室や専門機関と緊密に連携して指導にあたる。 ・教育相談室の整備を図る。 イ・多様な学習ニーズに対応するため、個別履修委員会を立ち上げ、全校体制で学習補償にあたる。	（2） ア・遅刻数 1, 500 回以下 [1, 642 回] （3） ア・3 学年人権研修満足度いずれも 90%以上 [1 年アンガーマネジメント講習、1 年同和問題 97%、2 年在日韓国朝鮮人問題 99%、3 年障がい者問題 99. 7%] （4） ア・教育相談委員会を毎月定期開催し、情報の共有と、SC や外部機関への早い時期での引継ぎを行う。[実施] イ・ 個別の履修委員会にて長欠生徒の学力保障の体制を確立 不登校生徒を対象とした遠隔授業等を実施 [実施]	
4	労働安全衛生管理体制の充実	（1）大阪府立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づき働き方改革を推進する ア コミュニケーションの促進、ハラスメント・体罰等の防止 イ 業務内容の精選、平準化、効率化 （2）安全安心な教育環境の確立 ア 施設設備の機能回復と充実	（1） ア・首席・主任・分掌長を中心としたミドルアップ・ダウンの一層活性化、分掌主導の学校運営の推進。 ・教職員が働きやすい職場環境改善に努める。 ・学校全体で経験の少ない教職員を育てる体制づくりを進める。 イ・業務内容の精選、平準化、効率化。 ・教職員全体で業務に当たる体制づくりを進める。 ・部活動方針の遵守に基づく部活動指導時間等の見直しを行い、教職員の長時間勤務を縮減する。 （2）安全安心な教育環境の確立 ア 経年劣化等による設備等の機能回復を図る。学校施設、物品等の機能回復と充実により教育環境を整える。	（1） ア・教職員向け自己診断「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」92%以上[96. 8%] ・「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」85%以上 [90. 3%] イ・年間の時間外在校等時間 720 時間を超える教育職員をゼロにする。 ・時間外勤務月間 80 時間を越える教職員の延べ数の減少[17 人] ・ストレスチェック職場環境評価の維持 [総合健康リスク値 88] （2） ア・不良箇所の減少	